令和6年 7月1日（毎月1日発行）　赤十字新聞　第1010号　昭和24年9月30日　第三種郵便物認可

赤十字NEWS 7

JULY.2024.#1010

Japanese Red Cross Society NEWS

7月は「愛の血液助け合い運動」月間！

ケガをしたときだけじゃない！

輸血用血液の**90%以上**が病気の治療に使われています

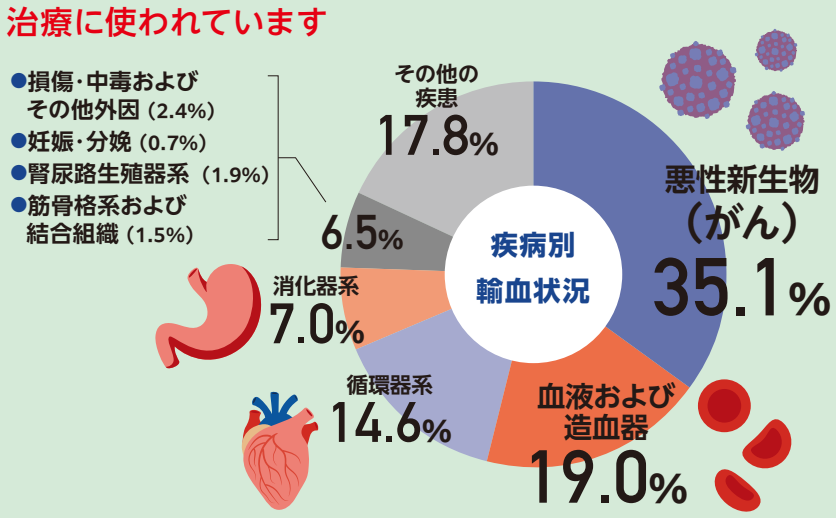
薬になった血液

- 赤血球製剤
- 血小板製剤
- 血漿製剤

など

患者さんのもとへ・・・！

輸血用血液の多くは悪性新生物（がん）の患者さんの治療に使われています



＊2022年 東京都／東京都保健医療局調べを加工
＊構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

CONTENTS

特集 ▶P.2
続・いのちを、ありがとう

TOPICS
一般市民による使用が認可されて20年
あらためて知ろう！「命を救うAED」
令和5年度 決算概要 …… P.4-5

連載
未来を守る防災ゼミナール …… P.4
献血ハートフルストーリー …… P.5

AREA NEWS
［秋田］ 災害救護も、献血も、医療も 多種多様な赤十字のお仕事体験
［埼玉］ 自然に触れ合いながら 社会貢献&救急法体験
［千葉］ 河川氾濫に備えて 水防・救出救護訓練に参加 ／他 …… P.6

WORLD NEWS
生存をかけ、気候変動の“人道危機”に立ち向かう …… P.8

高さ：約30cm

PRESENT!!

日本赤十字社 公式キャラクター
『ハートラちゃん ぬいぐるみ（大）』
プレゼント！ 詳しくはP.7をCheck！▶
10名様

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字新聞　編集・発行／日本赤十字社 広報室　〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3　TEL：03-3438-1311　一部 20円　赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

古紙パルプ配合率100％再生紙を使用

環境にやさしい植物油インキを使用しています

SPECIAL FEATURE | 特集

続 いのちを、ありがとう

2020年10月号に登場した当時2歳の宮島梨花（みやじま りんか）ちゃん。生後間もなく、白血病の一種で100万人に1人と言われる難病を発症し、治療中にはたくさんの輸血に支えられました。退院して5年。今春小学校に入学した梨花ちゃんの4年間を振り返るとともに、闘病中の輸血の状況、そして、ご両親と梨花ちゃんの「恩返し」、母・知子さんの「献血への感謝の思い」をお届けします。

頑張って伸ばした髪をヘアドネーションのためにカット

小さな体で難病を克服した梨花ちゃんの精いっぱいの「恩返し」

今年4月、6歳になった宮島梨花ちゃんは緊張と喜びがあふれる面持ちで小学校の入学式に参加しました。お気に入りの水色のランドセルを背負い、元気に登校する姿からは、命がけで病と闘った日々があったなど想像すらできません。ましてや、3歳になるまで免疫の関係で他の家庭の子とほとんど遊べなかったなんて、耳を疑うことでしょう。

4年前の取材時は、退院から1年以上経過していたものの家族以外の人との接触が制限されていました。移植手術や治療の影響で、はしかや水ぼうそうなどに感染したら重症化する心配があったからです。遊びたい盛りの梨花ちゃんは、他の子どもがいない公園で、知子さんと二人きりで遊びました。（当時の状況や闘病を伝える記事は、P.3下の二次元コードから）

5歳でヘアドネーション

梨花ちゃんが病児用ヘアウイッグに寄付するため、髪を伸ばし始めたのも4年前です。抗がん剤の影響で一度は全部抜けてしまった頭髪が徐々に生えそろってきた梨花ちゃんに、知子さんが「やってみる?」と尋ね、まだ2歳ながら「うん!」と、ヘアドネーションを決めました。その後、知子さんは初めて献血し、継続して献血に通うようになり、梨花ちゃんの父・大輔さんは骨髄バンクのドナーとして骨髄を提供。**家族全員が梨花ちゃんの命を救ってくれた恩返しをするように…**。梨花ちゃんは髪が伸びるのを楽しみにしていましたが、一方で幼い子の細い髪の毛は絡まりやすく、毎日の手入れにかなりのストレスを感じることも。昨年4月に既定の長さに達して寄付が実現した際、知子さんは「よく我慢して、頑張ったね」と、梨花ちゃんをたたえました。

現在の梨花ちゃんは3歳になる双子の弟妹もいて、時にけんかもし、仲良くにぎやかに暮らしています。しかし、移植を受けた体は普通の子とは少し違っていて、学校で風邪や感染症が流行すると、予防のため学校をお休みします。また、強い紫外線を浴びると「二次がん*」になりやすいため、医師の指導の下、日焼け止めを塗るなどの紫外線対策をしています。5月の運動会では、半袖の体操服姿の子どもたちの中で、ただ一人、紫外線よけの黒いアームカバーを着けた梨花ちゃんの姿がありました。

＊二次がん：治療のために使用した抗がん剤や放射線治療の影響で年月が経ってから発症する2つめのがん

入れても入れても壊れる血小板 繰り返された輸血

梨花ちゃんが、100万人に1人の難病である「若年性骨髄単球性白血病」を発症（診断確定）してから、今年5月11日で6年目、12月には造血幹細胞移植からも6年目を迎えます。状態は良好ですが、今後も1年ごとの定期受診は続き、「晩期障害*」を見据えて自分の体と向き合っていかねばなりません。

生まれて初めての輸血は生後5カ月のときでした。血液検査で白血病の疑いがあり、病名が確定する前に緊急入院。このとき、採血すると針を刺したところから床にしたたり落ちるほど出血が止まらず、看護師が慌てる一幕も。検査で**出血を止める働きのある血小板が特に少ない**ことが分かり、「血小板製剤」を輸血しました。しかし、入れても入れても血小板が壊れてしまうため、週2、3回の輸血が必要に。ヘモグロビン数値も下がることがあり、「赤血球製剤」も輸血。知子さんは、赤血球を輸血することでみるみる顔色が良くなる梨花ちゃんを見て驚いたそうです。輸血が必要なほど赤血球の数値が低いということは、大人でいえば極度の貧血状態。言葉を発せない梨花ちゃんも、体がつらく、本来の元気が出せなかったことでしょう。

入院して1カ月、精密検査の結果から病名が判明。梨花ちゃんは正常な血液をつくるための「造血幹細胞」の移植が必須である、と診断されました。まずは、白血病の薬で腫瘍細胞の増殖を抑えるアザシチジンを投薬し、採血結果を見て輸血も頻ぱんに行います。また、移植のために胸に中心静脈カテーテルの手術をして点滴用の管を挿入しましたが、このときも、なかなか出血が止まらず知子さんはとても心配したそうです。闘病中の梨花ちゃんにとって、**「血小板製剤」はなくてはならないもの**でした。

造血幹細胞移植を行うにあたり、他の人の造血幹細胞をそのまま体に入れても、自分の細胞が残っていると生着しません。いったん、自分の造血幹細胞を破壊するため、強い抗がん剤を小さな体が耐えられるぎりぎりまで投与します。この移植前の処理で、大量に点滴をするので尿の量も増え、おむつがすぐにいっぱいになるため夜中のおむつ替えの回数が多く、知子さんは眠れない日が続きました。「多いときは、薬液や輸血が7種類も注入されていました。梨花も食欲がなく、吐いたりもするので、とても苦しい状態だったと思います。私も眠れなかったので、母子ともに極限状態でした」（知子さん）

待っている人がいるから… 今度は自分が、力になりたい

移植が終わってしばらくすると、また輸血が再開されました。血液の成分を入れても壊され…の繰り返しで、22日間の連続輸血。やがて数値が安定し、輸血をしないで済むようになりましたが、知子さんはこのときの経験から、**血液を提供してくれた人々に対し、深い感謝の念が湧く**そうです。また今でも、献血が足りない、などの情報には敏感に反応してしまうそう。「入院中、輸血を待っているのに、いつもの時刻に届かなくて、まだ届かないの?と不安になったことがありました。年末年始など献血する人が少なくなりそうな時期は、輸血足りているかな…と、心配になります」。

生まれて間もない時期に、ほとんど病院から出ることができない9カ月間の闘病生活を送った梨花ちゃんと、知子さん。今では、家族5人で幸せな日々を過ごしています。知子さんは、「献血のボランティアをしてくださった方々には、本当に感謝しかありません。赤十字マークをつけた献血運搬車を見かけるたびに、“あの車の向かう先に血液を待っている人がいる!”と思うと、胸が熱くなります。私も、少しでも力になれたら」と、ご自身が献血をする理由を話します。梨花ちゃんも、幼いながらに、多くの人に支えてもらったことが深く心に刻まれていて、「人を助ける人になりたい。苦しんでいる人を助けるお医者さんになりたい」と将来の夢を語っているそうです。

＊晩期障害（晩期合併症）：小児がん患者が大人になってから発症する可能性がある、成長障害や臓器の疾患、不妊などの内分泌障害など

ご両親と祖母に寄り添われ、造血幹細胞を点滴で体内に移植している梨花ちゃん

心臓近くの太い血管に薬を注入するために中心静脈カテーテル手術も受けた

抗がん剤の影響で髪は抜け落ち、点滴の管とつながれた状態で遊ぶ梨花ちゃん

Blood products

梨花ちゃんを支えた「血液のお薬（輸血用血液製剤）」

献血の血液は、各地のブロック血液センターの製造所で成分ごとの血液製剤となり、さまざまな治療に役立てられています。

「血小板製剤」
- 保存温度 20～24℃
- 有効期間 採血後4日間
- 要振とう

血小板は、血管が損傷したときに血管をふさいで出血を止める働きがあります。
「血小板製剤」は血小板が減少した場合や血小板減少症に使われます。

「赤血球製剤」
- 保存温度 2～6℃
- 有効期間 採血後28日間

赤血球は、肺で取り込んだ酸素を体の各部へ運ぶ働きがあります。
「赤血球製剤」は赤血球が減少した場合や貧血などに使われます。

献血の血液から造られる血液製剤の種類と有効期間は？

過去の記事はこちら

赤十字NEWSオンライン版でご覧いただけます！

TOPICS

1 TOPICS

一般市民による使用が認可されて20年
あらためて知ろう！「命を救う AED」

赤十字NEWS オンライン版で さらに詳しく！

あらゆる場所に設置されているAED しかし、その使用率はわずか4%

日本では、突然心停止となる人の数が1年間で約9.1万人に上り、1日に約200人、7分間に1人が亡くなっています。心停止から命を救うために、**AED（自動体外式除細動器）による迅速な電気ショックが不可欠**です。ただ、AEDは街のさまざまな場所に設置されていますが、心停止で人が倒れた場合に、**その場に居合わせた人が実際にAEDを使用する割合はわずか4%**に過ぎません。

その現状を変えていくために、日赤では、各地での講習のほか、WEBサイトや動画サイトを通じて心肺蘇生法やAEDの使い方を発信しています。また、日赤も構成メンバーである日本AED財団のサイトでは、**AEDを用いた救命処置を学び、救命サポーターとして登録ができるアプリ「team ASUKA」などが配信**されています。一般市民のAED使用が認可されてから20年を迎える今年、いざというときに備えたAEDの知識を、多くの方に見直していただきたいです。

救命サポーターアプリ「team ASUKA」

AEDの設置場所のマッピングやゲーム、救命活動について深く学べるコンテンツが次々とアップデートされています。

救命サポーターアプリは二次元コードから入手できます（アプリストアにアクセス）

迷ったらAED！ その瞬間の“選択”が命を救う

昨年9月、日赤埼玉県支部職員の山橋嘉子（やまはし かこ）さんは、休日にバレーボールの試合会場で心肺蘇生が必要な状況に遭遇しました。「試合前、会場ロビーで人だかりが。近づいてみると、女性が倒れ、旦那さんらしき男性が必死に声をかけていました。傍らにはAEDのバッグが用意されていましたが、女性は弱く呼吸しているように見え、周囲の方たちはAEDの使用をためらっていました。私は思わず駆け寄り、AEDの操作を開始しました。AEDの講習で学べる知識ですが、女性の呼吸は心停止直後の**“死戦期呼吸”**で、通常の呼吸とは異なるものです。もし電気ショックが必要でなければ、AEDが診断して電気ショックは起きないので、その機能を信頼し、**AEDの音声案内に従って1秒でも早く使うのが正解**です」（山橋さん）

山橋さんが動き出すと、次々と手伝う人が現れ、救急車が到着するまで連携して救命活動を行いました。女性は一命を取り留めて回復。山橋さんは東京消防庁から感謝状を授与されました。

感謝状を贈呈された山橋さん（中央）

vol.4 未来を守る 防災ゼミナール

日赤の**災害救護研究所**の専門家の視点から、災害時に必要な知識や今から始められる防災など、役立つ情報を発信します。

災害救護研究所とは？
日本赤十字看護大学付属の研究機関として2021年に発足。災害時の救護活動を通して得た知見を学術的に分析・集約し、被災者の苦痛の予防・軽減を目的とした研究所。

今回のテーマ

災害時に通信手段が断たれたときへの備え
生き延びるための情報収集

お話を伺った人
情報連携企画室員
近藤 祐史さん
元・日本赤十字社医療センター
国内医療救護部／救命救急センター医師

私はこれまで災害派遣医療チーム（DMAT）や、日本赤十字社医療センターの医師として、国内のさまざまな災害の被災地で救護活動に携わってきました。現在は行政機関で災害医療などの危機管理に取り組んでいて、最新の知見を日赤にフィードバックする役割も担っています。その中で、近年は特に災害時の情報収集の重要性や難しさについて、危機感を持っています。2018年の北海道胆振東部地震で被災地に向かった際、停電の影響で通信が困難になる経験をしました。この通信障害は、携帯電話会社の基地局が電力不足によって機能しなくなったことが原因でした。また、2019年の台風15号でも千葉県では送電設備が被害を受け、電力が復旧するまで数日間アンテナが機能せず、救護活動の障害となりました。このような状況では、災害に強いと言われるIP無線機も役に立ちません。災害への備えとして蓄電池やソーラー発電など電力を確保している方は多いと思いますが、**大きな災害では、通信インフラそのものが使えなくなる可能性がある**のです。

携帯電話が使えない場合に備え、どこに避難するか、どのような手段で家族や知人と連絡を取るかを考えておく必要があります。避難者が多い中でも落ち合えるよう、漠然とした場所ではなく**具体的な目印（●●公園の▲像の前、など）を決めておく**と良いでしょう。また、通信ができなければ、携帯電話で地図を見ることもできません。避難場所までのルートを事前に調べておくのも重要です。一方、衛星電話やアマチュア無線といった、通常とは別の連絡手段を確保する方法もあります。これらの通信機器は有用ですが、いざ使おうとすると、衛星電話の契約切れやバッテリー切れ、地形により無線が通じにくかったりと、うまく使えないケースも多く、定期的に使用の練習をしておくことが大切です。連絡手段として災害用伝言ダイヤルもありますが、遠方の親戚や知人を拠点として家族間の居場所や状況などを共有することも選択肢の一つです。**「公衆電話から叔母の家にかけ、伝言する」などを決めておく**のです。

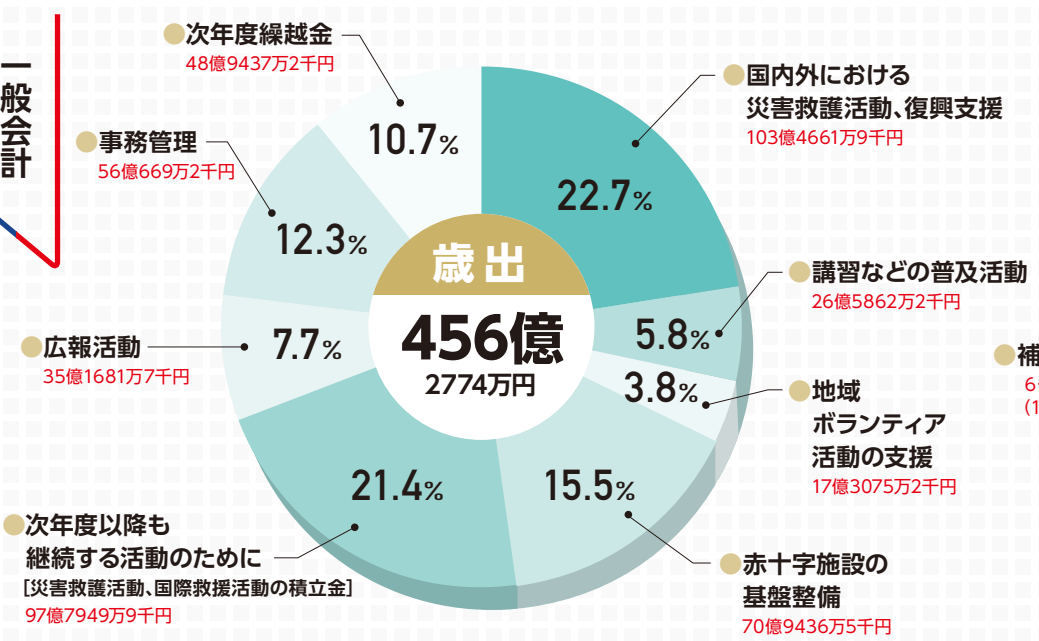
日本国内であれば、災害が起きて家族が離れ離れになっても、生きてさえいれば再び会うことはできます。**生き延びることが大前提**です。普段から連絡手段の備えと共に、命を守るために安全な場所に避難するという意思の統一をしておきましょう。（近藤祐史さん 談）

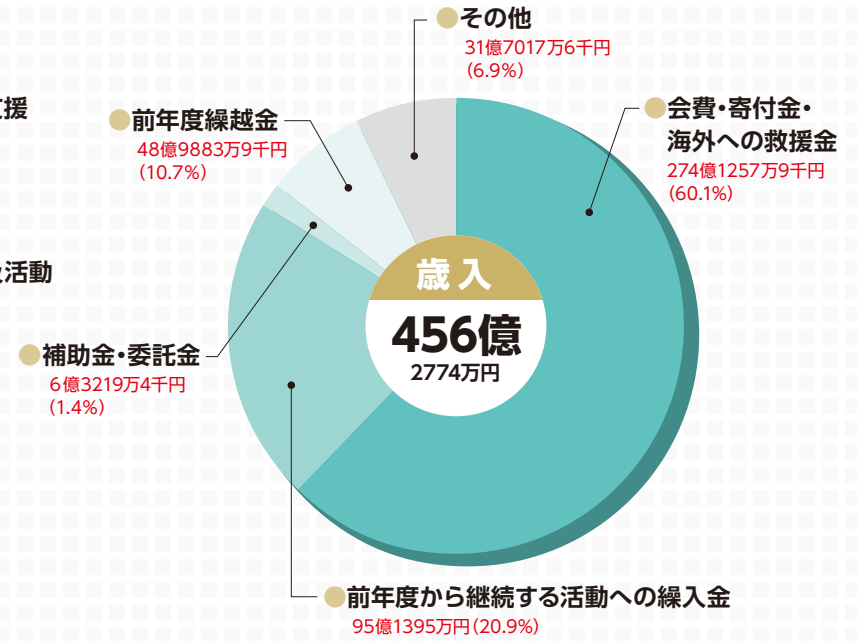
あらかじめ決めておいた拠点に、それぞれの状況を伝言する

令和5年度 決算概要

令和5年度、日本赤十字社は一般会計と3つの特別会計（医療施設、血液事業、社会福祉施設）をあわせて総額1兆5000億円を超える規模の事業を展開しました。このうち、個人・法人の皆さまからいただいた会費や寄付金を主な財源として実施した活動にかかる歳出歳入は以下のとおりです。

一般会計





注1）本社・支部間で重複計上されている28億8536万9千円については、歳出・歳入から差し引いて表示しています
注2）千円未満を切り捨てているため、歳出と歳入それぞれの各項目の合計額と表示している合計額は一致しません

全額を被災都道府県に設置される義援金配分委員会へお送りいたします

災害義援金※1・2 **382億5912万1千円**

※1 前年度からの繰入金等を含んでいます　※2 義援金が日本赤十字社の活動資金や事務経費に使われることは、一切ありません

詳しくはこちら

特別会計

医療施設

診療報酬を主な財源とする赤十字病院などの運営に伴う収入・支出です。

収入：1兆1746億939万4千円
支出：1兆1587億1278万9千円
差引額：158億9660万4千円

血液事業

医療機関への血液製剤の供給による収入を主な財源とする赤十字血液センターの運営に伴う収入・支出です。

収入：1665億5527万円
支出：1574億9491万4千円
差引額：90億6035万6千円

社会福祉施設

措置費収入、介護保険事業収入などを主な財源とする各種社会福祉施設の運営に伴う歳入・歳出です。

歳入：192億4010万6千円
歳出：147億8793万3千円
差引額*：44億5217万3千円

注1）差引額は千円未満を切り捨てているため、差は一致しません　注2）収入とは「収益的収入」、支出とは「収益的支出」、差引額とは「収益的収入支出差引額」のことです（*の差引額を除く）

献血ハートフルストーリー vol.7

このコーナーでは、血液事業に携わる日赤職員、ボランティアさん、献血協力者などの人たちが、日々どのような思いで血液事業に取り組んでいるのかを紹介していきます。

人助けになり、人生を充実させる献血

今月のひと

profile
献血協力者
長江（ながえ） 徳太郎（とくたろう）さん

私にとって献血はライフワーク。40年続けてきて、5月に献血回数1000回を迎えました。2週間に1度のペースで成分献血をして、**献血が可能な上限である70歳の誕生日前までに1250回できればと思っています**。現在は滋賀県在住ですが予約が取れる献血ルームを探して他県へ行くこともよくあり、電車で1時間以上かけて大阪や京都へも足を運んでいます。

少しでも人の役に立ちたいという思いから献血を始めました。献血の後は人助けに携われた思いで晴れやかな気持ちになり、充実感を覚えます。献血をするために健康でありたいという思いから、規則正しい生活を心がけるようにもなり、日々の張り合いが生まれました。

実は、この5月に妻が永眠しました。15年間、週3回の透析を受けて頑張る妻を見守る中で、健康のありがたさを身にしみて感じ、妻を支えてくれた世の中に恩返ししたいという気持ちがあります。それも、献血を続ける動機の1つです。もちろん、**いつか自分も病気で輸血が必要になるかもしれないですから、献血は助け合い、支え合いなんですよね**。最近は、若い人の献血離れを耳にしますが、ぜひ学校でも、献血というボランティアがあることを伝えてもらいたいです。体が元気で時間さえあればすぐにできる活動ですから。また、若い人たちには、**元気に動けて、家族と楽しく過ごせることは、本当に幸せなことだと知ってほしい**ですね。

社会には、献血以外にもゴミ拾いや交通安全のサポートなどいろいろなボランティアがあり、皆それぞれにできることがあります。自分に合った活動を見つけ、多くの人に、人を助ける喜びを感じてもらいたいです。

献血中

Area News

エリアニュース

全国各地、あなたの生活のすぐそばで
日本赤十字社の活動は行われています。

01 AKITA 災害救護も、献血も、医療も多種多様な赤十字のお仕事体験

日赤秋田県支部では、子どもたちが赤十字職員の仕事を体験し、楽しく学ぶことで赤十字の理念や活動を知ってもらうための体験型イベント「赤十字キッズタウン」を5月26日に開催しました。当日は会場の日本赤十字秋田看護大学・短期大学に142人の子どもが集まり、災害時の救護体験や献血の業務、看護師などのお仕事体験に真剣な表情で取り組みました。他にも、地震体験車で大きな揺れを体感して防災意識を高め、災害救援車両への乗車、ドクターヘリの見学、点訳奉仕団の点字作成など多様な企画を体験しました。

02 SAITAMA 自然に触れ合いながら社会貢献＆救急法体験

5月11日、日赤埼玉県支部は、協定を結ぶ埼玉りそな銀行などの地域企業・団体らが共催する「クリーンウォーク」に参加しました。会場となった「見沼田んぼ」は、約1260ヘクタールという広大な面積に都市近郊とは思えない豊かな自然や田園風景が残っている場所。5団体82人の参加者は、その自然と歴史に触れながら、約2.5kmを歩いて清掃。清掃の前には、日赤職員による救急法体験会も開催し、さまざまな団体と連携を深めました。

03 CHIBA 河川氾濫に備えて水防・救出救護訓練に参加

5月18日、「第72回利根川水系連合・総合水防演習」が開かれ、日赤千葉県支部や成田赤十字病院の職員、赤十字ボランティア計71人が参加しました。同訓練は、昭和22年に発生した未曽有の台風被害を教訓として毎年行われている、水防および救出・救護などの総合訓練です。台風による大雨で利根川が氾濫した想定で、陸上自衛隊や消防、警察などによって救い出された傷病者に対して、日赤の救護班がトリアージや応急手当を行いました。その後の医療機関への搬送までの流れを実践し、いざというときに円滑に動けるよう、救護班の任務や他機関との連携について、改めて確認する機会となりました。

04 SHIZUOKA 水の事故を防ぐ「技術」を磨く3日間の救助員養成講習

溺者に抱きつかれた時の対処を学ぶ

日赤静岡県支部では、海や河川でのレジャーが増える夏を前に、水の事故防止や、事故に遭った際の救助や手当ての方法などを伝えるための水上安全法救助員Ⅰ*養成講習を実施しています。今年も県内の水泳場2会場で3日間ずつ、計19人が参加して行われました。終了後、参加者からは「救助の知識が深まった」「動きのチェックや細かな指導が多く、勉強になりました」といった感想が聞かれました。また今回の講習には、昨年度指導員資格を取得した新人指導員も参加。熟練指導員と協力する中で「先輩の指導方法をよく観察して練度を高めていきたい」と、水上安全法の普及への強い意気込みを持って指導にあたりました。

＊養成講習「Ⅰ」はプールで、「Ⅱ」は海・河川・湖沼での実習です

05 KYOTO 聴覚・視覚に障害がある方と共に学ぶ救急法講習

5月26日、日赤京都府支部は、みぶ身体障害者福祉会館にて聴覚・視覚が不自由な方も交えた救急法講習会を実施。

今回の講習は、以前から聴覚障害者と共に救急法を学ぶ機会をつくることを目標としていた、救急法のボランティア指導員・吉川奈々さんが指導にあたり、手話通訳らがサポートをしました。講習後、吉川さんは、「ろう者も聴者も一緒になり学び、助け合える機会になったことがうれしいです。普及しているAEDのほとんどが音声ガイダンスでの操作指示なので、ろう者にとってはハードルがあります。本当のバリアフリーな社会に向けて、今後も活動を続けたいです」と語りました。

5月は赤十字運動月間

レッドライトアップやパレードで赤十字の活動をPR

毎年5月は、赤十字の活動を広く紹介し、継続的な支援をお願いするための『赤十字運動月間』。今年も各地で多くのイベントが開催されました。

赤十字施設や歴史的建造物を赤色でライトアップして赤十字をPRするイベント「レッドライトアップ」。山形県では、5月2日から30日までの間、国の重要文化財である旧米沢高等工業学校本館にて実施しました。また、群馬県では、5月2日から10日にかけて、群馬県庁や臨江閣など県内5カ所で開催。伊香保温泉では、奉仕団と県青年赤十字奉仕団による募金活動や広報活動も行われました。

日赤山口県支部では、JRC加盟園の協力のもと、キックオフイベントを実施。園児約180人が赤十字の応援と世界平和を願って作成したポスターのお披露目や、赤十字クイズを“ハートラちゃん”と一緒に行い、地元メディアも取材に訪れました。

福井県支部では、5月3日から5日まで、「もっとクロス！赤十字展」を開催。救援物資を運ぶトラックの展示やハイゼックスを使った炊き出しの配布、パネル展、防災グッズの作製、救急法の体験などに加え、「癒やしのハンドケア」も実施しました。

大分県支部では、5月11日に市内商業施設にて赤十字キッズパークを開催。献血模擬体験や看護師体験、胸骨圧迫の練習、ハートラちゃんとの記念撮影など、子どもたちが楽しく赤十字を体験しました。

同日、愛媛県支部では、松山大街道商店街にて、「赤十字フェスタ」を開催。パレードの後、救急法・避難所の体験会や、奉仕団員による、手作りおしるこの提供、街頭募金などを行い、メンバーが一体となった感動的なイベントとなりました。

山口／幼稚園でキックオフイベント

福井／赤十字奉仕団による癒やしのハンドケア

大分／練習キットで胸骨圧迫を体験

愛媛／パレードを楽しむ松山市赤十字奉仕団員

レッドライトアップ

「重要文化財 旧米沢高等工業学校本館（山形）」

「伊香保温泉（群馬）」

常任理事会開催報告

令和6年6月27日、令和6年度第3回の常任理事会が開催されました。審議結果は下記のとおりです。

記

1 理事会及び第104回代議員会に付議する事項について
（役員の選出、令和5年度事業報告及び収支決算の承認）

審議の結果、原案のとおり理事会及び第104回代議員会に付議することが了承されました。

理事会開催報告

令和6年6月28日、全国社会福祉協議会会議室（新霞が関ビル）において令和6年度第1回の理事会が開催されました。審議結果は下記のとおりです。

記

1 第104回代議員会に付議する事項について
（役員の選出、令和5年度事業報告及び収支決算の承認）

審議の結果、原案のとおり第104回代議員会に付議することが了承されました。
また、国際人道法と日本赤十字社について報告しました。

代議員会審議結果公告

令和6年6月28日、全社協・灘尾ホール（新霞が関ビル）において開催した第104回代議員会における審議結果は下記のとおりです。

令和6年7月1日
日本赤十字社

記

第1号議案　役員の選出について
副社長1名、理事2名及び監事3名が次のとおり選出されました。
副社長　十倉雅和　　監事　金和明
理事　高野律雄　　監事　古賀信行
理事　多田和仁　　監事　脇本潤一

第2号議案　令和5年度事業報告及び収支決算の承認について
原案のとおり議決されました。

PRESENT!!

10名様

高さ：約30cm

日本赤十字社 公式キャラクター
ハートラちゃん ぬいぐるみ（大）

まだまだある、
ハートラちゃんグッズ。
詳しくはこちら

日本サービス
オンラインショップ
▼▼▼

プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・WEBでご応募ください。
①お名前　②郵便番号・ご住所　③電話番号　④年齢　⑤赤十字NEWS7月号を手にされた場所（例／献血ルーム）
⑥7月号読者アンケートの回答
※ご応募いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせのみに利用いたします

〈⑥ 7月号読者アンケート〉質問項目

【A】日赤の「会員」ですか
ア. 会員（年間2千円以上の寄付を継続している。但し、義援金を除く）　**イ.** 会員ではない

【B】赤十字について知っている活動はどれですか※下記選択から**ア～ケ**の文字をご記載ください。複数選択可
ア. 国内災害救護　**イ.** 国際活動　**ウ.** 赤十字病院　**エ.** 看護師等の教育　**オ.** 献血（血液事業）　**カ.** 救急法等の講習
キ. 青少年赤十字　**ク.** 赤十字ボランティア　**ケ.** 社会福祉

【C】今月号の赤十字NEWSをお読みになって、以前よりも赤十字活動全体についての理解が深まりましたか
ア. とても理解が深まった　**イ.** ある程度理解が深まった　**ウ.** すこし理解が深まった　**エ.** 以前と変わらない

【D】興味・関心を持った記事・企画はどれですか
ア. 特集　**イ.** TOPICS　**ウ.** 防災セミナール　**エ.** 決算概要
オ. 献血ハートフルストーリー　**カ.** エリアニュース
キ. プレゼント　**ク.** ワールドニュース

【E】赤十字NEWSの適切な大きさは
ア. 今のまま　**イ.** A4サイズ　**ウ.** 小冊子（A5 148×210㎜）サイズ

【F】赤十字NEWSの発行回数は何回がよいですか
ア. 月に1回　**イ.** 2カ月に1回　**ウ.** 3カ月に1回　**エ.** 半年に1回

【G】赤十字NEWSの記事をスマートフォンやパソコン（オンライン）で読みたいですか、いままでどおり紙で読みたいですか
ア. オンライン　**イ.** どちらかというとオンライン
ウ. （オンラインと紙の）両方　**エ.** 紙　**オ.** どちらかというと紙

【H】その他、赤十字NEWSに関するご意見、ご要望（任意）

郵送／〒105-8521東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS
7月号プレゼント係
WEB応募／下の二次元コードからご応募ください。
7月31日（水）必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

ご応募は
こちらから

WORLD NEWS

―ワールドニュース―

大洋州ってどんなところ？

主にオーストラリア以東の太平洋に点在する14の島国。世界で気候変動の影響を大きく受ける国のランキングでは、バヌアツ、ソロモン、トンガがトップ3に入り、パプアニューギニアとフィジーも15位以内に入るなど、災害に対する脆弱性が問題となっている。

生存をかけ、気候変動の“人道危機”に立ち向かう

サイクロンや地震、津波、火山噴火、干ばつといった災害リスクが高い大洋州。また近年では、水害も大きな問題となっています。現在、フィジーの国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）大洋州事務所において、災害救援支援や気候変動にかかる長期的な開発事業に携わる辰巳 碧さんに、大洋州の現状と、積極的な赤十字ユースたちの活動について伺いました。

水害により日常生活を脅かされ気候難民となるフィジーの人々

フィジーでは、気候変動に起因する洪水や干ばつが深刻化しています。サイクロンレベルではない豪雨や大雨でも、家屋への浸水や道路の冠水などの大きな被害が及び、暮らしが脅かされるほどです。現地のニュースで**水害の影響で泣く泣く他島へ移住する人々の話題を月に一度は目にするなど、**災害の頻度は高まっています。洪水が起これば、衛生面でも劣悪な環境になりますし、作物にも影響が及ぶので、自給自足の生活をしている人々にとっては、死活問題です。5年前には、気候変動によって日常生活を送ることが難しくなった人を対象に、フィジー政府が居住地移転を支援する政策を打ち出しました。フィジーなど大洋州の国の人々は幸福度が高いことで知られていますが、そんな彼らに、**住み慣れた土地を離れ、仲の良い隣人たちと離れ離れになる災難**が降りかかっています。

こうした大洋州の現状を日本の皆さんにも知ってもらいたく、3月に一時帰国した際に、青少年赤十字スタディー・センター（高校生対象の宿泊研修）でお話をさせてもらいました。私のレクチャーの後、全国から集まった73人の高校生が班ごとに気候変動をテーマに話し合いましたが、参加したメンバーからは、「コミュニティで支え合っているからこそ幸福度が高い。そんな人々が気候難民となりバラバラになってしまうのはつらい」「移住で災害からは逃れられたとしても、もともと経済的に厳しい状況になっていた人々が、新しい環境で暮らしていくための費用はどうするんだろう？僕らに何かできないだろうか？」といった意見が聞かれました。**気候難民となった人々の苦しみに共感し、何か力になれることはないかと考えてくれたことを、大変うれしく思います。**

地域住民や関係機関を巻き込んでアクションを起こす赤十字ユース

赤十字は大洋州において、各国の気象庁や国家災害管理局、また地域機構や国連機関（UNDRR、WMOなど）とも連携し、気候変動に対する支援を行っています。

対応策としては、大きく2つ。1つは、環境にやさしい事業運営やアドボカシー（気候変動による脅威を発信し、国際社会を動かす）といった**緩和策**。2つ目は、災害による被害を最小限にするための備えや、気候変動に直面する人々の適応力と意識変容を支援する**適応策**です。後者のアクションを1つご紹介すると、研修を通じて気候変動を正しく理解し、行動するきっかけを若者に与える機会として「Y-adapt（ワイ アダプト／Y=Youth）」研修を実施。昨年フィジーで開催されたY-adapt では、ユースボランティアたちが集まり、ゲームやアクティビティを通して気候変動を学び、自分たちができる適応策を考えました。

大洋州の若者も気候変動に対し、何ができるかを真剣に考えています。Y-adapt研修を経て、最初に彼らが行ったのが、地域のごみ清掃運動。**気候変動と清掃に関連が？**と疑問に思われるかもしれませんが、多発する洪水、冠水の問題には大きく関係しています。地域での洪水への対策として有効なのが、排水溝の整備です。しかし、フィジーでは、ごみの捨て方が適切でなく、ごみが排水溝を詰まらせる原因になっていました。赤十字ユースは清掃に加え、分別するためのごみ箱を設置し、**適切なごみの廃棄方法について人々に伝え、広めるというプランを考えました。**地域の役所や交番、他の市民団体のところにも出向いて活動を説明し「一緒に動いてくれませんか？」と協力を求めるなど、地域全体を巻き込むアクションを起こしています。

5月には、Y-adaptに参加しファシリテーターでもある、キリバス赤十字社のベイアさんが、小島嶼（しょうとうしょ）開発途上国（SIDS）の国際会議に大洋州の赤十字ユース代表として参加し、スピーチを行いました。ベイアさんは、頻発する自然災害や気候変動が大洋州の人々の生活にどのような影響を及ぼしているかについて発表し**「気候変動による影響の最前線にいる最も脆弱なコミュニティをもっと支援してほしい」**と、呼び掛けました。

こうして、ユースのメンバーたちが地域活動に深くコミットし、時にはリーダーシップを持ってアクションを起こしている姿を、非常に頼もしく感じています。これからも、彼らの活動をサポートし、大洋州における気候変動の諸問題に取り組んでいきたいと思います。

２日間降り続けた大雨により洪水が起きた
©フィジー赤十字社

清掃活動を行うフィジーのユースボランティアと辰巳さん（中央）

キリバス赤十字社のユースボランティア事業担当者ベイアさんと

辰巳 碧
（たつみ・みどり）
国際部 開発協力課

大学卒業後、開発援助機関、シンクタンク、NGOにて、主に教育と福祉分野に従事後、日赤の開発協力事業に参加。現在はフィジーのIFRC大洋州事務所で活動を行う。